

話 角館雛めぐり

雛人形で歴史を探るまち歩き

角館に代々大切に受け継がれてきた享保雛や押絵などの様々な雛人形を、まち歩きしながら楽しんでもらうと、角館雛めぐり（主催／角館雛めぐり推進委員会（堺研太郎委員長）が2月18日から始まりました。このイベントでは、武家屋敷通り

の旧家や外町の商店などで雛段が飾られたほか、多くの協賛店で雛めぐりにちなんだ食事やお菓子などを販売しています。

また、かつらぎ（角館町上新町）でのオープニングイベントでは、会場内に飾られた数種類の雛人形に囲まれながら、角館のマスコットキャラクター「お梅ちゃん」のぬり絵コンテストの表彰や餅つきなどが行われ、多くの来場者で賑わいました。

この角館雛めぐりは3月20日まで行われます。



かつらぎ内に飾られた雛人形

問合せ先
仙北市商会角館本所
☎ 54-2304

話 第4回仙北市ボランティア会員交流研修会

相手も自分も満足できる活動を

2月18日、仙北市ボランティア会員交流研修会が角館交流センターで行われました。

この研修会は、相手の気持ちを理解しながら自らも満足できるボランティア活動ができるようにと、仙北市ボランティア連絡協議会（高橋達会長）が主催したもの。NPO法人秋田ふくしハートネット理事長の久米力氏が「ふくしってなんだろう」と題した基調講演を行い、参加者は熱心に聞き入っていました。

また、東日本大震災に伴う支援物資の仕分けや被災者の避難住宅の



久米氏の基調講演に熱心に聞き入る参加者

話 紙風船西木ふるさと会総会開催 郷里を想い話はずむ

2月19日、東京都上野精養軒で、首都圏在住で西木町出身の会員約100人が集まり、第24回紙風船西木ふるさと会総会が開かれました。

門脇市長は、「ふるさとは今も昔もその姿を変えずに、前へ前へと進もうとしています。そのためにも、ふるさと会の皆さんの力を貸してください。ふるさとへ足をお運びください。」とあいさつしました。



カンデッコを説明する門脇市長

また、特別文化講演として、秋田市出身の女優、浅利香津代さんが秋田弁の豊かさや面白さ、そして大事さについて話し、会場は笑いにつつまれ、大いに盛り上がりしました。

話 高校生による雪燈籠制作 駅前で冬の角館を灯す

小正月行事に合わせ、角館駅前に雪燈籠が制作されました。

この雪燈籠は、角館駅が、角館に来るお客さんや駅に集う皆さんに喜んでもらうと毎年制作しているもので、今年は地元角館高校と角館南高校に制作を依頼。快諾した学校側から生徒会や野球部員が、2月6日から9日までの期間、コンパネなどを利用して作業を行いました。生徒のがんばりで完成した4基の雪燈籠は、駅利用者や集う人たちの目を惹きました。



4基の雪燈籠を制作する高校生



話 仙北市将来ビジョン策定委員会 市民目線の計画 「将来ビジョン」提出

2月23日、仙北市の将来構想として位置付けられている「将来ビジョン」が、仙北市将来ビジョン策定委員会（委員長 島澤諭秋田大学准教授）から市長に手渡されました。



島澤委員長から手渡された将来ビジョン

この「将来ビジョン」は、市民など10人の委員で構成された策定委員会が、平成22年11月から6回の会議を開催し作成したものです。安心・安全・快適に暮らせるまちづくりの基本的な考えのほか、「市民所得の向上」「次世代育成・生活環境の整備」などの4つの施策が盛り込まれています。

市では、将来ビジョンの実効性を精査し、今後の施策に活かしていく予定です。内容は市ホームページに掲載しています。

仙北市長賞入賞作品

《写真部門》



『銀河流れる内陸線』
植村直人さん（仙台市）

「今年の秋は、紅葉を観にいきたい。」と、ぽつりと妻がいった。「紅葉か。」とわたし。「抱返り溪谷とかいいらしいわよ。」
「……」どこか考えていると……

《作文部門》
『2011秋 秋田内陸線の旅 紅葉のロマンスグレー』
前田典夫さん（横浜市）

心に刻まれた秋田内陸線のある風景 印象深い50作品選定

内陸線の列車通学や旅の思い出、あるいは存続に寄せる思いなど、十人十色の「心に刻まれた秋田内陸線のある風景」を作文と写真部門で、昨年10月から12月まで募集したところ、全国から作文61点、写真77点の応募がありました。

2月10日、仙北市長、津谷北秋田市長、酒井秋田内陸縦貫鉄道社

長、本市出身直木賞作家西木正明さん、本市と北秋田市芸術文化協会の6人で審査会を開催し、特に印象深い50作品を入賞および佳作として選定しました。

これらの作品は、今後、内陸線の魅力を広く発信していくために活用していくほか、3月下旬に50選として製本し、発売を開始する予定です。